第１回　仙台市音楽ホール検討懇話会

日　時　平成29年11月27日（月）　14:30～16:10
場　所　市役所本庁舎２階　第四委員会室
出席者　今井邦男委員、垣内恵美子委員、庄子真岐委員、高田登志江委員、三塚尚可委員、宮原育子委員、村上ひろみ委員、本杉省三委員、館圭輔委員
次　第　１．開会
２．委嘱状交付
３．市長あいさつ
４．委員紹介
５．事務局紹介
６．懇話会の設置について
７．会長及び副会長の選任
８．議事
(1) 現状・課題と懇話会の役割
(2) 現状・課題をふまえた主な論点と議論のための仮説の提示
(3) その他
９．今後の進め方について
１０．閉会
配布資料　資料１　仙台市音楽ホール検討懇話会委員名簿
資料２　仙台市音楽ホール検討懇話会設置要綱
資料３～５　現状・課題と懇話会の役割
資料６～７　現状・課題をふまえた主な論点と議論のための仮説の提示
資料８　今後の進め方について

１．開会

２．委嘱状交付

（市長から各委員へ委嘱状を交付）

３．市長あいさつ

○市長

皆様こんにちは。お忙しいところお集まりいただきまして本当にありがとうございます。市長の郡でございます。

そしてまた、このたびはそれぞれ大変お忙しくていらっしゃる中をこの懇話会の委員にお願いをさせていただきましたところ、快くお引き受けをいただきましたこと、深く感謝を申し上げます。ありがとうございます。

仙台のまちはかねてから合唱に取り組む方が多く、さまざまな音楽に取り組む方も多くいらっしゃる、そしてまた、プロのオーケストラを持っているそういうまちでもあります。また、市民レベルで、例えば定禅寺通ジャズフェスティバルもそうですけれども、さまざまな音楽というものが身近に、暮らしの中に息づいているそんなまちでもあって、学生のまちとは違う楽都というのも仙台の大きな魅力の１つ、音楽のま

ち、都ということで、この名前も多くの日本中の方のみならず、世界の皆さんたちもこの名前を知っているというように思います。

国際音楽コンクールもそうですし、秋の「せんくら」も本当に多くの方々がこの仙台にお集まりいただいています。誇りと思っていますけれども、その拠点となるべきホールについて、もっと集客ができるような、お集まりいただけるようなそういうものが欲しいというこういうご要請をいただいているわけであります。

私自身、就任して３カ月程ですけれども、選挙期間中、何だか郡さんは音楽ホールに後ろ向きのようだよ、というふうなことが随分言われましたけれども、決してそういうことではございませんで、仙台のまちにふさわしい音楽ホールというのはどういうものであるのかという、その議論をしっかりしていくべきではないかというのが私自身のその時の思いでございましたし、そして今も変わらぬ思いでございます。

今回のこの懇話会は、基本構想を練っていく前の段階でありますけれども、今申し上げましたように、市民が集い、そしてまた奏で、そしてまたさまざまな交流を広げるようなそういう場となる音楽ホール、どの場所に、どのような規模で、どういう機能を持たせてというさまざまな論点があろうかと思いますけれども、率直なご意見をぜひ委員の皆様方にご議論をいただきまして、方向性を見つけていただけるとありがたく存じます。

忙しいお時間を大変恐縮ではございますけれども、この楽都仙台のためにお知恵とお力をお貸しいただきますよう、お願い申し上げまして、私からの挨拶にかえさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

４．委員紹介（自己紹介）

○今井委員

宮城県合唱連盟の理事長をしております今井邦男でございます。

合唱の関係では全日本の合唱連盟の仕事も長年続けております。よろしくお願いします。

○垣内委員

政策研究大学院大学の教授をしております垣内と申します。

私は、ミュージアムとかそれから今お話ありましたような音楽ホール、劇場、文化財といった文化的な価値を体現しているものに対して、どういう形で政府、国、自治体が関与すべきか、あるいはすべきではないのか、もし関与するとしたらどういうことをすべきなのかといったようなことを研究いたしております。今回、こういう場に参加させていただきましたこと、大変光栄に思っておりますし、何らかの形で貢献できたらというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○庄子委員

皆さん、こんにちは。石巻専修大学の庄子真岐と申します。

私の専門は観光まちづくりというのを専門にしております。ですので、まちづくりの成果を観光に生かして地域を元気にしていきたい、そんな政策ですとか事業ですとかそういったことについて研究をさせていただいております。今回の音楽ホールはまちづくりの手段の１つでもあるのかなというふうに捉えておりますので、観光的な視点も用いて議論を深めていければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○高田委員

皆様こんにちは。高田と申します。

企業名でおわかりのように物流をやっております。ですので、音楽ホールということについては全くの無知蒙昧と言っても過言ではございません。それに、この会のネーミングが懇話会ということになっておりました。これまた格式の高い名称がついたと、少し気が重く思っております。ぜひ産業界の人間として、音楽ホール建設について何を考え、何をしていかなければならないかを、皆様ご指導ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。

○三塚委員

三塚尚可と申します。

宮城県の吹奏楽連盟の会長をしております。東北とか全国という役職はみんな名誉とついていても半分引退したような形になっていますけれども、「楽都・仙台に復興祈念『2000席規模の音楽ホール』を！市民会議」の代表者もしております。いろいろお世話になっております。よろしくお願いいたします。

○村上委員

初めまして、株式会社北洲の代表をしております村上ひろみと申します。どうぞよろしくお願いいたします。

弊社は住宅、ツーバイシックスの注文住宅を中心としております。また建材流通、そして大型木造の建築を行っております。私どもは豊かな空間、豊かな時間を過ごすそういった場をいかにするかということに精進しておりますけれども、また今回のこの大役でございますけれども、仙台に豊かな時間を過ごせる大型ホールが成就しますことを願って、微力でございますが頑張らせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○本杉委員

本杉省三と申します。よろしくお願いします。

私は建築を専門にしていまして、特に劇場とかホールの文化施設を中心に研究や設計という立場でもやっております。東北には3.11の地震以降、頻繁に来るようになりまして、その時のいろいろな思いとか風景がいまだにこびりついています。海外に地震の、いろいろな文化施設の被害の報告に来てくれということも、二度ほど呼ばれて行ったりしています。それらを思うにつけ、このたびの仙台で新しくホールを造るということで、その懇話会に呼ばれて皆さんと一緒に何かその方向性を定めるということに非常に意義を感じています。どうぞよろしくお願いいたします。

○館委員

仙台市文化観光局の館と申します。当局の方からこの懇話会に入らせていただいております。

仙台における音楽ホールのあり方について、楽都仙台にふさわしいもの、そしてまたまちづくりの観点からどのようなものが求められているのか、大きくこういった２つの観点があるのではないかというふうに考えておりますけれども、各界を代表される皆様方の集まるこの懇話会におきまして有意義な検討ができるよう、私も微力ながら尽力してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

（宮城学院大学の宮原委員は所用のため遅れての参加）

５．事務局紹介

○事務局（文化振興課長）

文化観光局文化スポーツ部長の細井でございます。

私、文化振興課長の中山でございます。

文化振興係長の川口でございます。

音楽ホール担当の文化振興課主任、星野でございます。

本懇話会の運営支援業務を委託しております、この音楽ホール全体のコンサルティングを委託しております株式会社政策技術研究所代表取締役、永山恵一が同席いたします。

６．懇話会の設置について

○事務局（文化振興課長）

（事務局より資料２に基づき説明）

７．会長及び副会長の選任

○事務局（文化振興課長）

（資料２設置要綱第４条に基づき委員互選により会長及び副会長の選任）

（三塚委員より、会長に本杉委員、副会長に今井委員を推薦）

○本杉会長

委員長に推薦していただきました本杉です。

先ほども申し上げましたように、私の東北地方にかける思いというのはやはり震災抜きにしては語ることができないように思っています。また、震災を受けたのはもちろん仙台あるいは宮城県だけではなくて全域にわたっているわけですけれども、その中心である仙台においてこういう計画があるということで、それは神戸の地震を振り返ってみれば兵庫の芸術文化センターに相当するような計画だなというふうに思っております。

3.11以降、私、文化芸術による復興コンソーシアムというのが行われてきましたけれども、まだ解体はしていないのですけれども、それの運営委員長をしていまして、たびたびこちらに訪れるようになって、本当に文化芸術がこの地域において果たしている役割というものを再認識しましたし、また、そのことについてこの地域の人たちが非常に情熱を持って当たられているということを強く感じました。そういった皆様方の思いというものをこの施設に込められて、そして建設され運営されていくのだろうというふうに想像しております。その一助になって力になれれば非常にうれしく思います。そして、皆様の協力を得て、何とかその方向性というものを形にして表していきたいなというふうに思っていますので、どうぞご協力をよろしくお願いいたします。

○今井副会長

昨日、一昨日、全日本合唱コンクールの一般部門の全国大会が東京でありまして、70回のコンクールで、東京の池袋の芸術劇場、あそこが本番の会場で、すばらしい、演奏家にとっては本当にすばらしい理想的な会場の１つなんですね。日本の中でも。そこで大変いい経験をしまして、私の仙台の合唱団も金賞という、全国で。特別賞もいただきまして大変楽しい思いをしたんですけれども。

どちらかというと私、いろんなことをやってきましたが、現場の人間、実際に音楽に関わる側でずっと活動してきました。それで仙台は、先ほどお話にもありましたように、プロのオーケストラ、それからジュニアオーケストラ、それから吹奏楽、合唱、さらに国際コンクールですね、仙台クラシックフェスティバルあるいはジャズフェスティバルなんかも、いろんなタイプの音楽が本当に豊かに、自主的に、非常に盛んです。そしてまた、仙台の音楽をやっている人間の一種のアイディアといいますか、そういうものがすごく新しいといいますか、とてもそういう点では私、合唱だけじゃなくて、仙台で起こってくる市民的な音楽の活動に大変誇りを持っております。

それで、それにふさわしい会場は残念ながらさまざまな事情で遅れておりまして、それにプラス、先ほどからお話を聞いていますと、まちづくりのほうからも大変興味を持たれていると、このホールが。今の日本は決してもう、大変裕福なお金のある時代でなくなりましたけれども、新しいタイプの、音楽にとっても、それからまちづくりにとっても、人々の生活にとっても、非常に何か新しいアイディアのあふれたホールが造られていくのではないかと、またそういうふうに願っております。どうぞよろしくお願いします。

８．議事

（会議公開の確認→異議なし）

（議事録署名については、本杉会長及びもう一人（五十音順）の委員に依頼（今回は今井副会長）→異議なし）

(1) 現状・課題と懇話会の役割

○本杉会長

では、本日の議事に入りたいと思います。

現状・課題と懇話会の役割ということについて、事務局から資料をもって説明していただきたいと思います。お願いいたします。

○事務局（文化振興課長）

その前に、今、宮原委員が到着されましたので、一言自己紹介という形でお願いしたいと思います。

○宮原委員

皆さん、こんにちは。遅くなりましてすみませんでした。宮城学院女子大学の宮原と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（文化振興課長）

（事務局より資料３～５に基づき説明）

○本杉会長

ただいま事務局から説明があった件につきまして、委員の皆様から何か質問や意見がございましたらお願いいたします。

この懇話会は予定では30年度末まででおよそ６回程度、その中で市民を含めたシンポジウムを２回程度催す予定だということでございます。オープンするまでに10年ぐらいかかるということですので、私など生きているかどうかちょっとわからないですが、長生きし見届けたいと思っています。

ご意見なければ、次の議題に進みたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

では、議題１につきましてはこれで終了ということにさせていただきます。

(2) 現状・課題をふまえた主な論点と議論のための仮説の提示

○本杉会長

続きまして、議題２であります。現状・課題をふまえた主な論点と議論のための仮説の提示について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（株式会社政策技術研究所代表取締役）

（事務局より資料６～７に基づき説明）

○本杉会長

非常に簡潔な中によくまとまっているのではないかなというふうに思います。

今説明いただきました内容について、皆様の中でご意見や質問とかあればお願いいたします。垣内先生はもう、文化芸術振興基本法策定のときからずっとやっていらっしゃいましたし、いろいろお考えがあるのではないかと思いますけれども、いかがでしょうか。

○垣内委員

少し今の資料に基づきまして、私の方からコメントをさせていただきたいと思います。大変よくまとめられた資料だと思いますし、幾つかの視点につきましては強く賛同させていただく部分がございます。時間も限られておりますので、３点だけお話しさせていただきます。

まず、私自身もここ10年、15年ぐらい、文化政策の中で、研究の中で、各劇場、さまざまな劇場の事例研究をさせていただいておりますが、かつて文化とか芸術というのは社会のごく一部の方々が楽しめる、言ってみればぜいたく品のような扱いがあった時代もあったかと思うんですけれども、近年、ここ10年、20年で非常に大きく様変わりいたしました。それは劇場側の意識も変わったのですけれども、地域の方々の劇場を見る目というのでしょうか、認識も非常に大きく変わったように思っております。こちらの資料の方でおまとめいただきましたように、人々がともに生きる絆を形成するというようなことも文化芸術、そして劇場に求められるようになってきておりますし、また、人々の共感と参加を得ることによって、新しい広場として機能するというようなことへの認識と期待も非常に高まっているように思っております。

本杉先生ともご一緒いたしましたけれども、例えば水戸市が今度、2,000席のホールをつくられるわけですが、その時には衰退した中心市街地を活性化する１つの拠点として、公演をやっているときだけではなく、舞台公演がない時も人々が滞留し、先ほど市長のご挨拶にもありましたように、人々が集い交流する場として機能するように劇場というものをつくっていこうという形で、駅前に非常に立派な2,000席のホール、それから大小のホールと空間と、ショップやレストランなども入れ、また無料で人々がそこに滞留できるようなソファとか若干のスペース、さまざまな多目的スペースも含まれた、そういうまちと連続する形での劇場をつくられるというようなことで、非常に新しい動きが出てきております。

また、私も深くいろいろな仕事をさせていただいております、同じ政令指定都市の川崎市が持っているミューザ川崎という2,000席のホールですが、これは駅直結の音楽ホールでして、この音響のよさというのは、今、サントリーホールと並び称されるくらい国内外に評価が高いものですけれども、ここは駅直結でして、しかもラゾーナとい

う非常に大きなショッピングセンターと続けて設置されているということもありまして、今、非常に大きな地域の拠点になっております。10年たって、市民意識調査などでの結果を見ますと、60代、70代の方は川崎市のイメージがまだ公害のまちというイメージがあるようなのですけれども、50代、60代になると労働者のまち、そして大きく違うのは、10代、20代の方々、つまり小さい時から、学生の頃から音楽に親しんでいた方々は川崎市のことを音楽のまちというふうに考えているのですね。このシビックプライドといいますか、認識の大きな変化というのは、このすばらしい劇場が地域住民の方にそういう大きなインパクトを与えたのではないかというふうに思っております。

こういうその大きな社会の変化の中、今、仙台市がまさにこれから2,000席、あるいはそれ以上のものになるのでしょうか、規模の大きなきちんとしたホールをつくるということであれば、単に舞台芸術だけではないものを目指す必要があるでしょう。もちろん舞台芸術を創るということもすごく重要なことであると思いますけれども、それだけではなく、公演しないときに何をするのかということもぜひお考えいただければと思っております。

また、ハードをつくるというのは当然ソフト、その中でどういう活動をするかということと直結します。これは資料の７の７ページ、８ページぐらいにおまとめいただいているかと思いますけれども、人をつくるとかにぎわいをつくるとか、交流をつくっていくという、目には見えないのだけれども、そのまちの魅力を高めるような活動を、やはりこの新しいホールには担っていただきたいというふうに思っております。こういう目的が設定されますと、その先どういう活動をしていくのかということも多分少しずつ見えてくるのかなというふうに思っております。

先ほどの市長のご挨拶にもありましたように、仙台は楽都ということでして、たくさんの音楽の資源、人々がさまざまな形で音楽を初めとする舞台芸術などに関わっているわけですから、そういう方々のご意見も踏まえて、使い勝手がよく、そして、まちの魅力、まちと連続してまちに開かれたそういうホールをつくっていただきたい。これができると恐らく回遊性も高まりますし、外からの交流人口にも貢献するのではないかなというふうに思っております。

とりあえず、私の方からは以上でございます。

○本杉会長

その他ご意見ありますか。また後で皆さんから一人ずつご意見いただこうと思っていますけれども、よろしいでしょうか。

今、楽都という話がありましたが、音楽の楽だけじゃなくて、仙台市は学ぶ都でもあるということで、山岳の岳都というところもあって、ここには余り山はないのですけれども、その３つの楽都というのをうたっている市もあるくらいで、それをもう少し広く全国的、あるいは世界の窓という表現が先ほどありましたけれども、世界に向けて開かれるような場所になっていくためにも、ぜひこういう計画がうまく進んでくるといいのではないかなというふうに思います。

(3) その他

○本杉会長

では、何か他になければ、次の議題３、その他に移っていきたいと思いますが、事

務局から何かございますか。

○事務局（文化振興課長）

議題としては特にございませんけれども、今後、議論を進めていく上でも、ぜひ委員の皆様に本日の議事を振り返って、あるいは今後の検討に向けまして、一言ずつお話をいただければというふうに思います。

三塚委員につきましては、お配りしているこの市民会議の資料の説明もあわせてお願いしたいと思います。

○本杉会長

では、先ほどのこの資料ですね、これに基づいて三塚委員、ご説明をお願いいたします。

○三塚委員

大変長い名前がついている、「楽都・仙台に復興祈念『2000席規模の音楽ホール』を！市民会議」というものを２年少し前に立ち上げました。そのときの代表を務めております、今でも続いておりますけれども。２年たった段階で、これまでの活動についてまとめようということがありました。大体9,000人ぐらいの方々から賛同するというような意見をいただきました。さらに1,260名の方々から具体的にこういうホールをというようなご意見をいただきました。それをこのリーフレットにまとめたものでございます。大変見にくいかと思いますけれども、先ほど、永山さんの方からお話ありました仮説の提示、全く私聞いていて、このまとめたものと同じような内容なのだなというふうに感心して聞かせていただいております。

ご覧になっていただければわかりますけれども、いろんな方々のご意見、中でも同じように、音響のすばらしいとか、気軽にみんな集まれるようにとか、やっぱり交通アクセスの問題ですね、それからみんなで広場として扱えるようなものとか、そんなことをまとめてありますけれども、先ほどのお話とほとんどダブりますけれども、1,260人分の意見をまとめたものでございます。後ほど詳しくご覧になっていただければありがたいと存じます。

なお、佐渡裕さんのメッセージが載っておりますけれども、この指揮者の方は、今はウィーン・トーンキュンストラー管弦楽団首席指揮者をなさっておりますけれども、神戸の大震災のときには兵庫県に芸術文化センター、有名なホールを造られたのですけれども、そのホールができた後に、非常にこのホールを活用して神戸の皆さんに活気づいていただくような活動を続けていただいていると、こういうすばらしい方からメッセージをいただきましたので、それもご覧になっていただければありがたいと思います。

私の方からは以上でございます。

○本杉会長

私もこれ見ていて、先ほど事務局のほうからも説明ありましたように、音楽ホールという言葉の中に多機能という言葉が使われていましたけれども、仙台で現在やられているもの、コンクールにしても、あるいはフェスティバルにしても非常にさまざまな音楽にまつわる事業があります。そういうことを考えると、先ほど提示していただいたような多機能という言葉になっていくのだろうと思います。このパンフレットの中でも、三塚さんの話、この裏の大きな広がりの中に、オーケストラピットを備えた

オペラを楽しめるホールをというような言葉が書かれていて、あるいは演劇、能、狂言など全般的に使えたらというような言葉もあったりして、非常に幅広い活動の場所になっていってほしいのだな、ということがこういうものから読み取ることができるのではないかなというふうに思います。

○本杉会長

残りだんだん少なくなってきましたので、皆さんから、第１回目ですので少しずつお話を伺いたいと思います。３分程度で、名簿順で今井先生からいきたいと思いますので、お願いします。

○今井副会長

非常に胸の躍るような懇話会の内容で、そこの副会長にしていただいたこと、大変誇りにも思います。会長を助けてこの懇話会を成功させたいと思っています。

音楽の現場にいる人間としては、音楽というのは鳴り出すと一遍に言葉も何もかも超えて、さまざまなものを超えて１つになる力があります。それが要するに音楽の力とよく言われているものだろうと思います。ですから、僕たちがこれから考えていこうとするホールの、実際に中身は本当に生きている、生きている人間と同じというか、生きていて常に開かれていて、誰とも結び合える力のあるものが、そこから生まれてくると。それは特別に生まれるのではなくて、もう音楽そのものがそういう力を持っているということを大事にしていきたいと思います。よろしくお願いしたいと思います。

○垣内委員

先ほどお話しさせていただいたので、手短に１点だけリマインドさせてください。

私、文化政策を専門としておりますので、どうしてもコストとメリットが気になってしまいます。劇場というのはそのもの単体で見ますとどうしてもお金がかかる、公的な助成が必要な部分がございます。それを補ってかつ余りあるような地域の住民、市民の方々への貢献ができてこそ、その劇場が持続的に成り立つものであろうというふうに思っております。ですので、今ご紹介いただきました広場としての音楽ホールという、こういう熱い市民の皆様の気持ちをできるだけ吸い上げて、そういうことに応えていけるようなホールをつくっていくということが非常に重要なことだろうというふうに思います。

○庄子委員

私も今回の音楽ホールの方向性というのはすごく共感できるものであったなというふうに考えております。

仙台はやはり、東日本大震災の復興の拠点となる都市でもあるというふうに思っております。そういった中で、音楽ホールに対しての需要が高いということで、今回の音楽ホールについては、仙台市の施設であるとともに東北を代表する施設になってくる、そうするとやっぱり集客力を持った施設になってくるのかなというふうに思っております。

例えば集客力のある施設として、さらに経済効果の高い施設にしていくためには、例えば訪れる観光客ですとか、施設を利用されるお客さんの動線をしっかり捉えていくべきかなと。どこから来てその施設を利用して、その後どこに寄ってもらうのか、そういったところをしっかりマネジメントしていくべきなのかなというふうに思います。どうしても音楽ホールとかコンサートホールですと、そのコンサートホールで滞

在されてしまう時間が長くなってしまって、余り経済波及効果がないというふうに言われているところもあるのですけれども、これはやはり宿泊が伴うようになれば滞在時間が必然と延びていきますので、そういった宿泊を伴うような拠点の１つとして捉えていくことが大事なのではないかというふうに考えました。

もう一つ仙台の、今、施設の内容を聞いて感じたのですけれども、コンベンション都市としての機能として、少し仙台の施設というのは他の政令指定都市と比べると劣ってしまっている部分があるのではないか、というふうに考えています。

例えば、あるところで聞いた話では、仙台で国際レベルの学会を開きたいと、あるところが、仙台にある大学が幹事校になったと。ところが、国際レベルの学会を開ける施設がなくて東京で開催したということがあったのですね。なので、今回の音楽ホール、多目的であるならば、そういったコンベンション機能をも補完するような施設であったらいいのかなというふうに率直に感じた次第です。

また、コンベンション都市で視察とか、学会ですとかそういったものについては、その後ですね、その後の芸術鑑賞なんていうのも１つ、コンベンション都市の魅力になってきますので、そういった意味でも、コンベンション自体の開催ができるというのも１つですし、その後、コンベンションの後の魅力創出というのもこのホールが担っていけたらいいのではないかなということでお話しさせていただきます。

○高田委員

いかに無知蒙昧な私でも、１時間ちょっと皆様のご説明を伺っておりましていろいろと勉強いたしまして、これは後に設立、いわゆる音楽ホールをつくったりしたほうが絶対的に有利なのだなって思いました。お金の集め方もいろいろ多岐にわたって今はいろいろ集められるし、何も仙台市民とか補助金とかそういうものに頼らなくてもいいのではないかと。それから、運営に関しても新しい運営の仕方を世界中から拾ってきて、それで新しい運営の仕方、お金が少し儲かるかもしれない運営の仕方とか、それに先ほどの庄子さんのご説明の中にあったように、21世紀の新しい技術を使ってすごくいいホールができるよねと、多目的に使えて、また音響的にももちろん、クラシックとかそういうものもしっかりと演奏できるような劇場がつくれるよというようなことで、これは仙台、すごく有利だと思い、わくわくいたしております。

○館委員

今日改めまして資料を、資料の３あたりからこれまでの経緯ですとか眺めさせていただきまして、紆余曲折のありましたこの音楽ホールにつきましても、ようやくこのたび検討懇話会の開催というところまで来られました。本当にこれまでさまざま音楽団体の皆様あるいは経済団体の皆様、市民の皆様からご要望をいただいておりました、そしてまた議員の皆様からご指導いただいておりましたこの音楽ホールにつきまして、ようやく今回こういうステージまで来られたのかというような思いを持ったというのが、まず率直な感想でございます。

そしてまた、資料５でご説明のありましたように、懇話会以降の流れということを見てみましても、懇話会の報告書が出て、そして機能、規模、それから立地、こういうものについて一定程度考え方が整理されたといたしましても、その後また基本構想から施工まで10年近くがかかると、こういったような非常に長く時間のかかるものでありますので、余り今回、新たな一歩を踏み出したからといって安心ばかりしていられるわけではございません。

資料の７においてお示しをいただきましたこの2,000席規模の多機能ホールといった仮説、想定というものにつきましても、今後のこの懇話会を検討していくのに当たりまして、仙台市の当局としてもこの点についてどのように考えるのかということをまたきちんと整理をさせていただきまして、なるべく早急にしかるべき時期までにお示しをさせていただき、そしてこの懇話会における議論がさらに今後実りあるものになっていくことができるようなやり方、我々もしていきたいというふうに考えているところでございます。

○三塚委員

私は吹奏楽連盟の会長もしておりますけれども、全国規模の大会とかよく東北でどうでしょうかというようなことがあります。しかしながら、引き受けしましょうといっても、結局は宮城、仙台にはないから、青森県引き受けてくれるかとか、岩手県引き受けてくれるとか、他県に回すほかないと、こういう現状がずっと何十年も続いております。ですから、私としてはもう少し、10年かからないように完成させてほしいなというふうに、早期建設というのが。

もちろん音響のよさというのが、よそも立派ですので、それに勝るものをつくっていただかないと、東北を代表する仙台市ですから、その辺を吟味していただければと思います。よろしくお願いします。

○宮原委員

宮原です。今日は遅れまして失礼しました。

今回の資料でいろいろお話を拝見しまして、本当にこれだけのたくさんの要望を１つにまとめていくというのは大変だと思いますし、また、でもこれをかなえていくというのはとても重要だと思います。

今回、音楽ホールのこういった具体的な資料を拝見して、私も本当にいち早くこれができたらいいなと思うのですけれども、先ほどの資料５のほうで、やはり開館までに10年近くかかるというふうなことをお聞きしまして、今回、１つやっぱり気になるのは、この10年間をどのように過ごすかといいますか、準備するか。その建物の計画というのは進んでいくと思うのですが、一方で、10年後の仙台を考えたときに、東北周辺の人口もどんどん減ったり、それから仙台もある程度そういった人口構成も変わってくると思います。そういう中でこのホールを考えると、今度は東北だけではなくてもう少しグローバルな視点で、海外一円からこのホールを利用するという可能性も出てくると思うのですね。

そうした中で、この10年間でどんな人がこのホールをマネジメントしていくのだろうかという視点の中で、音楽人材、演奏する人もそうですが、この劇場、ホールをマネジメントしていく人材をどうやって育てていくか、ないしは市民の方たちもそうですけれども、この10年を使って、このホールが開館したときに本当に持続的に、仙台市のないしはアジアを代表するホールとして運営ができていくかというところの部分の準備こそ、もう一方ですごく重要な側面になるのではないかと思います。その辺りは感じたところでした。

○村上委員

今日はありがとうございます。資料を拝見しまして、多くの課題があることを改めて感じました。

はや震災から６年を経過しております。音楽が復興に灯火を灯すというか、大変役

割は大きいのですが、ここですごく感じますことは、先ほどからお話ありましたとおり10年という長さでございます。10年後となりますと2027年ということで、これから10年、先ほど宮原委員がおっしゃられましたとおり、10年後の仙台ってどうなっているのでしょうと。また、日本の中におけます仙台の役割と、東北の中における中枢都市である仙台は一層役割が重くなるかと思いますけれども、一方でその地方間競争という観点におきましては大変厳しいものになるかなと思っております。

つい二、三日前の朝のＮＨＫのニュースで、ちらっと見ただけなのですけれども、インバウンドで東北はたしか北陸の次に海外からいらっしゃる方が少ないということを聞いています。一方で、北陸にはやっと新幹線ができまして、先日、私も金沢へ行ってまいりましたけれども、金沢21世紀美術館に行ってそういったところで楽しむと、またはそこでそのまま夜も宿泊して楽しむ、そういう空間がございました。一方で、さてこの仙台はいかがなものかと、まだまだ人をそこに呼び込むという施設が少ないと思っております。

そういう意味で、本当に地方間競争の中枢にあるこの東北の中枢の仙台の役割をすごく感じます。市と県との連携を是非していただいて、10年よりも早い時期にすばらしい音楽ホールができまして、地域の皆様、そして経済効果ある音楽ホールができますことを願います。

○本杉会長

私の方からも一言申し上げたいと思います。この懇話会に求められていることというのは、冒頭で説明がありましたように、主にホールの規模とか機能あるいは立地条件ということでしたけれども、それにプラスアルファということもありましたけれども、今のお話のように運営とかあるいは持続性、サスティナビリティーということも、あるいは人材ということも皆さんの方からありました。きっとそういうことも含めてある議論をこれからしていかなければならないのだろうなというふうに思いました。

冒頭であったように、文化芸術振興基本法ができて、今年振興という言葉がとれたという意味は、やっぱり振興がある程度進んできた次の段階なのだということを国は意識しているのだろうと思います。一方で、国の目指すところとそれぞれの自治体の歩みとは全く一致しているわけではないので、その号令といいますか、法のもとに自治体がどういう歩みをしていくのかということも、国民としてあるいは市民として期待しているところがそれぞれの地域であるのだと思います。

冒頭で市長も述べられましたように、やっぱりまちづくりというのは非常に大きなキーワードだと思うのですね。それがホールの機能とか規模あるいは立地ということにも当然つながってくるわけで、そこでこの文化芸術あるいは音楽ホールと言われているこの施設がどんな役割を担えるのかということが、我々のこの会で議論していかなければならない中心的なことなのだろうというふうに思います。

そういう中でも、やはり10年先ですので、なかなか10年先を見通すというのは非常に困難で、過去10年、過去を振り返るのだってなかなか大変なのですが、先を見通すというのはますます大変で、誰も考えていなかったことも当然起こり得るわけで、その結果といいますかね、それを我々は既に体験しております。ですからそのことは難しいなといいながらも、やっぱりその一年一年をかけてそれぞれのプロセスが今のところ計画されています。性急にまとめて着工しようという意識はないようですので、きちんと議論をして一歩一歩段階を踏んで、市民の理解を得て進みましょうという市

の姿勢は非常にすばらしいと思います。ですから、その姿勢とともに、我々も時間をかけてこの中で議論をして、あるいはまた我々の身の回りにいる人たちにも声をかけてもらって、皆さんの意見を聞いてきたりして、ぜひこの場でこんな意見もあったよということも含めてお話しいただいて、それがこの会としてのまとまり、懇話会の報告となって、市にもう一度投げかけられるようなそんな歩みになっていければいいなというふうに思っています。

本日は第１回目ですので、この懇話会の役割や検討の進め方についてお話しいただきました。次回以降はもう少し具体的に、規模とか機能とか本格的な検討をしていきたいと思いますので、ぜひよろしくお願いしたいと思っております。

９．今後の進め方について

○本杉会長

では、最後になりますけれども今後の進め方について、事務局の方からご説明をお願いいたします。

○事務局（文化振興課長）

（事務局より資料８に基づき説明）

１０．閉会

○事務局（文化振興課長）

議事録について、でございますけれども、今回は本杉委員と今井委員ということでございます、署名はお二人でございますけれども、一応、皆さん発言をされていますので、事前に皆さんに発言内容は確認していただきます。皆さんの確認がとれましたらば、本杉会長と今井副会長に署名をいただきたいとそんな流れで考えております。

それでは、以上をもちまして第１回仙台市音楽ホール検討懇話会、終了させていただきます。